

巻頭言

世界に開かれた学びをつくる—教育するものの責任について

教職課程副センター長 藤井啓之

現在、世界の教育では2030年に向けて、関連性を持ちつつも方向性の異なる二つのプロジェクトが動いている。一つはOECD（経済協力開発機構）のもので、OECD Future of Education and Skills 2030 project（教育の未来とスキル：Education 2030）であり、もう一つはUNESCO（国連教育科学文化機関）が中心になって取り組む、ESD for 2030（持続可能な開発のための教育：Education for sustainable development for 2030）である。

「教育の未来とスキル2030」は、先行き不透明な未来に対応するためのコンピテンシー（複雑な要求に応えるために知識や技能、態度や価値を動員することも含んだ知識及びスキルの獲得以上のもの）の獲得に焦点を当てている。これらのコンピテンシーには認知スキル・メタ認知スキル、社会的・情動的スキルや、身体的スキルなどが含まれているが、教育目標や教育内容に縛られない汎用的なものであろう。他方、ESD for 2030は、コンピテンシーよりも持続可能な未来の方に焦点が当たっている。グローバルシティズンシップ、持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー、平和の文化、持続可能な開発などを学習課題として掲げていることから明らかだ。

2017年改訂の現行の学習指導要領は、概ねOECDの方向性と合致しているといえるのではない。「主体的で対話的な深い学び」や高校での「総合的な探究の時間」、「探求」と名の付く新設6科目には、探求活動を通してコンピテンシー（資質・能力）を獲得させるという意図がある。他方で、ESD for 2030の影は薄い。コンピテンシーなどの汎用的なリテラシーは、地球環境や平和や人権とは無関係に、経済的利益を上げるためにも、人々をうまく操作するためにも使用できてしまう。（OECDが経済関連団体であることを想起せよ）。それでは、これまでの地球に負荷をかけ、貧富の格差を拡大し、人権を抑圧し、戦争をしてきた社会を根本的に転換することはできないだろう。

人類の存続的な危機にある現在、どのような未来社会をめざし、そのために何を教え—学ばせるのか、どのように未来社会を担っていく人を育てるのか、ということを鮮明にしていかなければ、教育は未来に責任を果たすことはできないだろう。教育者を目指すかぎり、OECDや政府の教育課程政策ばかりに注目するのではなく、世界が我々に問いかけている人類的課題に一人ひとりが向きあうことが必要だ。大学教育も同様であろう。シラバスに「～できる」（資質・能力）と書き込んだり、現在やっていることをSDGsに紐づけたりするだけでなく、あるべき未来社会を担う人を世に送り出しているか、そのために何をなすべきかを真剣に考えなければならないだろう。それこそが大学の社会的存在意義である。それを果たさないでいると、大学は早晩、自壊していくだろう。

ステップアップ講座に参加して

スポーツ科学部 スポーツ科学科3年 吉本匠吾

○参加しようと思った理由

教員になる夢をもって入学したが、気付けば教員採用試験まで、残すところ1年を切っていた。教員になりたいという気持ちだけが先走りし、具体的な対策などは全くできていなかった。「何かから手をつければ、、、」と思っていたところ、教職チームの先生方に本講座を紹介してもらい、参加した。本講座では、教員採用試験についての説明に加え、面接対策練習もあるということで、少し緊張しながら参加した。

○講座を通して学んだこと

本講座は教員採用試験についての説明と面接対策練習の二部構成になっていた。一部の教員採用試験の説明では「教員採用試験の動向」「筆記試験・論作文・面接の対策」「学内支援ツール」についての説明があった。対策については、「質より量!」という言葉が、特に印象に残っている。自治体によって特長が大きく異なる教員採用試験では、筆記試験の範囲や多様な試験形態などに慣れることが大事になるそうで、そのためには練習量が必要不可欠だそうだ。それを可能にする方法のひとつとして、「細切れ時間で勉強する習慣」が紹介されていた。まとまった時間が取れないことを言い訳にするのではなく、時間の使い方を工夫し、自分で時間を作り出していくことが大切だと感じた。一朝一夕では身につかない試験であるからこそ、早期対策、早急な勉強習慣の改善をしていきたい。学内支援ツールについては、論作文・一般教養講座、動画シリーズが紹介された。分りやすい問題解説や、様々な動画がある事を知り、使わない手はないと感じた。

二部の面接対策練習では、事前に提示されていた問題を中心に、担当の先生に指導して頂いた。初めての面接練習ということもあり、伝えたいことが混乱し、質問に対して的確に答えられない場面が多くあった。しかし、担当の先生が、面接の基礎基本の指導や、自分の伝えたい内容を整理してくださったことで、伝えたい内容を整理して話すことができた。

○今後について

本講座で学んだことを活かして、まずは自分の「勉強する習慣」を見直し、膨大な範囲と多様な試験形態に対応していきたい。また、紹介のあった学内支援ツールについても積極的に活用していきたい。今回の講座では、他学部の学生さんとも繋がることができた。複数人でしかできない対策練習などを中心に、学部を越えて高め合いながら、同志と共に現役合格を目指していきたい。



教員採用試験対策講座

一次試験対策講座に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 今井愛梨

1. 参加理由

一次試験対策講座を受けた1番の理由は「自分に自信をつけるため」でした。講座を受ける前から教養試験の勉強や面接指導を受けてきていました。しかし、個人での学習が多く、自分の実力がわからず不安になっていました。そのとき、教員採用試験の一次試験前にこの講座があることを知って自分の自信につながれば良いと思って申し込みました。

2. 参加してみて良かった点、勉強になったこと

参加してみて良かった点は、苦手な部分の確認ができたことです。これまで、教養試験の勉強と面接指導を並行して学習してきましたが、この講座で自分の苦手を確認できました。教養はキャリアアドバイザーの方が、試験で頻出する可能性が高いと予想した問題集を作成してくださいました。問題集は基礎的な問題が多く、解ける問題はスムーズに解けました。しかし勉強していた内容でも実際に問題で解いてみると、手が止まってしまうこともありました。このとき自分の知識として身になっていないことが確認でき、試験前の学習につなげることができました。また、面接では聞かれやすい質問はすぐ答えることができましたが、深掘質問で答えられないことがあり、もっと自分の回答に根拠をもって答える必要があると感じました。

参加してみて、自分の苦手を確認でき一次試験前のラストスパートまで追い込むことができました。さらに、良かった点は仲間とモチベーションを上げることができたことです。あと数日しかない中で、「頑張ろう」「あとちょっとだ!」という言葉をかけてもらったことで、もうひと踏ん張り頑張ろうと思えるようになりました。

参加者も多くいたため、同じ自治体の人たちと話すだけでなく、他の自治体の情報も共有できる機会でした。情報収集も行い最後まで綿密に準備することで、本番に強い力をつけることができました。

3. 一次試験でどのような効果があったか

一次試験では、苦手を確認できていたことで本番では応用問題も解答することができました。また面接では、先生や友人にアドバイスをもらったおかげで、自信をもって面接官に話すことができました。このように、自信をもって試験に挑めたことで後悔なく一次試験を終えることができました。

講座に参加したおかげで自信をつけること、苦手を確認できたことなどありましたが、それまでの学習も大きく影響すると思いました。特に、この講座は一次試験の直前に行われるので、不安がある人ほど是非参加してほしいと思います。

この講座の前までにどれくらい勉強してきたかで、講座を受けた効果も変わってくると思います。そのため、一次試験対策講座の前までに十分に勉強し、少しでも自分の身になる講座にして欲しいと思います。



二次試験直前対策講座に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 鈴鹿令奈

私は面接試験に向けて、4年生に入ってから同級生に声掛けをし、週一程度のペースで面接の練習をしてきました。しかし、6月頃には中学校の教育実習があったり、7月後半になってくると、他の学年にも共通する学期末試験の他に、一次試験の対策もしなければならなかったりすることもあり、段々と皆で集まって練習するというのが難しくなっていました。ほとんどの都道府県で一次試験が終わった時期には、練習して培ってきた知識が半分以上抜けてきていたため、この講座のお知らせを見て、練習してきたことを思い出すとても良い機会だと思い、参加させていただきました。

講座の最初には、キャリア開発課の方から二次試験に向けてのポイントや、やっておくべき対策を教えてくださいました。「自分がどのような教員になりたいか」ということを軸に、面接練習をこれまで行ってきましたが、伝えたいことがいくつもあって、回答が長引いてしまうということがよくあったので、教えていただいた中にあった「主題は一つに、複数ある場合は最初に「2つある」など提示しておく」というアドバイスはとても役に立ちました。また、自分には、口癖の一つとして「・・・でしたが今は～」というように、過去の反省を生かした現在の成果を話す口癖がついていたのですが、

「比較するような話し方はあまり良くない」というアドバイスを頂き、その後の練習で意識して改善することができました。

その後には、2回に分けて、それぞれ希望する面接の練習を先生方に指導していただきました。私は愛知県の小学校だったので、個人面接を2回ずつご指導いただきました。教員の志望理由や校種の志望理由などは、これまでの面接練習で回答を準備していましたが、時々「〇〇な子どもに対してどう対応するか？」というような想定外の質問が来ることもあるため、何度も練習をして場馴れしておく必要があると改めて実感しました。また、自治体の志望理由などの質問についても、その自治体でしかできないことや、その自治体でやってみたいことなどを、自治体が提示している教育計画などを参考にして、自分なりの回答にしてまとめておく必要があるというアドバイスも頂き、改めて自分がこれまで作り上げてきた回答を一つ一つ見直すきっかけになりました。

この講座を通して、これまで積み上げてきた面接練習の経験を思い出したり、本番直前までに継続してすべき対策を教えてくださいたりするなど、とても良い機会をいただきました。その結果、無事に教員採用試験に合格して、来年度からは愛知県の小学校の教員として働かせていただくことになりました。

私は4年生の初めから同級生と面接練習をしてきましたが、それでも回答のコツをつかんだり、緊張せずに回答することができたりするようになるまでとても時間がかかり、最後まで「この回答で本当にいいだろうか」という不安がありました。筆記試験の対策はもちろんですが、この時期から面接試験の対策に入るというのは早すぎることは全く無いと思います。今のうちから、1日に5分や10分でもコツコツ続けていく人は、必ず来年の今頃に笑顔で合格の切符をつかめると私は確信しています。「継続は力なり」明るい未来に向けて一歩ずつ頑張ってください。心から応援しています。





合格体験記（長野県・中学保健体育）

一次試験対策の重要性

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 鷗飼啓

私は地元である長野県を中心に3つの自治体を併願し、すべての自治体で一次試験を合格しました。結果、二次試験を合格したのは長野県のみでしたが、ここでは教員採用試験における一次試験対策の重要性について特に綴っていきます。

大前提として、一次試験は誰でも合格することができます。近年、人物重視と言われている教員採用試験ですが、一次試験は筆記試験がほとんどの自治体で大きな割合を占めています。極端な話、勉強すれば誰でも合格することができるのが一次試験です。大学名も取得(見込み)免許も講師経験等も関係なく同じスタートラインで単純に得点が高ければ合格することができます。そんな一次試験を対策するにあたって大切なことは大きく3つあります。

1つ目はできるだけ早く一次試験対策を終わらせるということです。教員採用試験において大学生と講師経験者で最も差が生まれるのは個人面接・場面指導・模擬授業の中身です。そしてこれらは基本二次試験に位置づけられていることが多いです。現役合格を目指すのであれば、少なくとも3月には一次試験対策を終わらせ、二次試験対策へと移行していく必要があります。多くのパターンとして、一次試験当日まで一次試験対策をしており二次試験対策が間に合わないことが挙げられます。「一次試験合格発表までの二次試験対策」は他の大学生との差をつけるだけでなく、講師経験者との差を縮めることにつながります。二次試験対策をする心の余裕や意欲のためにも一次試験対策を早く終わらせることが必要です。

2つ目は答申・法令等も密度の濃い勉強をするということです。答申・法令等は数ある中からどれが出題されるかわからず、勉強しづらい部分であると言えます。しかし、ここを抑えておくことは小論文対策や個人面接、場面指導の対策へとつながります。例えば、面接や場面指導でいじめに対する対応について聞かれたとします。そこでただ自分の意見を述べるのと、答申を踏まえて自分の意見を述べるのでは大きな違いが出ます。特にICT機器の導入や新型コロナウイルスに関する最新の答申は必ず確認しておくことをお勧めします。繰り返しになりますが、一次試験対策は二次試験対策にも大きく影響しています。

3つ目はモチベーションの維持についてです。上記では、早期からの一次試験対策を促してきましたが、実際問題一次試験対策を早期から始めている人は多くありません。大抵、年が変わってからのような気がします。特にスポーツ科は合格を狙って採用試験を受ける人は10人いれば多い方です。そんな中で勉強しろと言われても酷な話です。私も何度も勉強する気持ちが沸かなかったことがあります。私のモチベーションの維持は、教員のやりがいについて再確認するという方法です。小・中学校でのボランティアや塾講師のアルバイト等にて感じてきた、教育の素晴らしさや自身の教員になりたいという気持ちを再燃させながら合格をつかみました。特に、学校教員や教育職に就こうか迷っている1・2年生にはイメージだけで志したり、諦めたりせず、まずは、自分の目で子どもを見て感じてほしいです。そういった経験が自身の教育観の形成やモチベーション維持へとつながります。

最後に一次試験対策についてですが、これには明確な正解はありません。人によってやり方は異なります。大学の先生や先輩・友達に聞きながら、自分にあったやり方を見つけ学習を進めていくことがいいと思います。また、二次試験対策については大学の対策講座の機会を大切にしてください。経験値だけでなく、様々な情報を入手することができます。教員採用試験合格は簡単なことではありませんが不可能ではありません。これを読んだ皆さんの合格を心より願っています。

合格体験記（福岡県／北海道・小学校）

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 角野龍一

1. 教員採用試験について

私が教員採用試験において意識したことは、自分でも受かる可能性のある自治体を探すことです。意識した理由として、愛知県や名古屋市など倍率の高い自治体は私では受からないと何となく感じていたためです。しかし、私は教師になりたい、そう思ったため前年度の倍率や今年度の募集人数を把握しおおよその倍率を予測しました。そこで受かる見込みがあった自治体を受験し、合格したのが北海道と福岡県でした。

私は1次試験対策を教員採用試験が行われる2ヶ月前程に本腰入れはじめたので時間がなかったように思います。1次試験対策としてはとりあえずできない所をカバーすることが私には必要でした。そのため高得点をたたき出すような勉強ではなく5割程を目標に勉強を進めました。つまり「浅く広く」行うことで勉強ができないなりに効率的に行うことができたのではないかと思います。

2次試験対策では、大学の先生方に必要なポイントを聞き出しながら重要であるポイントを抑えました。特に受験する自治体の教育目標などの面接のその場で考えても絶対に答えることができないところは事前に用意する必要があると思います。逆に言えばその他の持論はその場で展開することも可能だと思います。私自身、事前に作られた面接の展開よりも、自分自身の考えを自分自身の言葉で面接官に発信したかったのでできる限り自分自身の考えや、教育に関わる覚悟、教育に関わりたい熱意を伝えることを意識して面接に臨みました。

はっきり言って面接は普段のコミュニケーション能力や人見知りが大きく左右すると思っています。私自身普段のコミュニケーションや人見知りは無いと言ってもいいくらい社交的だと思います。この点において少しでも不安がある場合は、大学内や特に多くの人と関わることのできるアルバイトでは積極的にコミュニケーションを他者と図り、知らない人とも明るく笑顔で話すことを意識すれば徐々になにか見えてくるのではないかと思います。

これらのことは大半の後輩にとっては参考にならないとは思いますが、もし私のように勉強が苦手だけど子どものことが大好きで教師になりたいと考えているのであれば目を通していただくと嬉しいです。





合格体験記（静岡県・特別支援学校）

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 刑部有紀

1. 筆記試験対策

私は、家だと勉強に集中することができないタイプだったので、誘惑の少ない図書館で勉強をしていました。教採の3か月前くらいからは、授業と友達との勉強会、バイトの時間以外の全ての時間を図書館で過ごし、勉強に励んでいました。

筆記試験対策については、友達との勉強会がとても力になったと思います。私は、春休み頃から、仲の良い友達とZoomや対面で勉強会をしていました。そこでは、分からなかった小学校全科の問題を教えてもらったり、教職教養の人物名や自立活動の27項目等、絶対に暗記すべき部分を一緒に覚えたりしていました。友達と一緒に勉強することにより、記憶に残りやすくなったり、いい刺激を貰ったりすることができたと思います。

筆記試験対策は覚えることも膨大だし、覚えたと思っていても忘れてしまうし、正直結構しんどかったです。でも、私は、同じ夢を目指す友達とその苦しさや焦りを共有し、共に励ましあうことで乗り越えることができました。皆さんも友達を大切に、共に励ましあいながら乗り越えてください！！

2. 面接対策

面接対策は、筆記試験対策の息抜きと思ってやっていました。私は、面接ノートを作り、面接に関することは全てそこにまとめていました。試験の時にはそのノートがお守りのように感じる事ができたので、ノートづくりを私はおすすめします。

面接対策を進めるにあたっては、静岡県では面接の過去問がでていたので、過去5年分くらいの過去問を集め、その質問内容について、自分の考えをノートにまとめていきました。まとめるときには、タイマーで測り、30秒から1分でまとまるように整理していました。面接練習は、大学の先生にお願いして、面接官をやってもらっていました。面接練習については、先生にお願いしたほうが友達と行う時よりも緊張感をもって行うことができ、また的確なアドバイスを頂くこともできました。なので、皆さんも大学で行われる面接対策講座に積極的に参加しつつ、勇気を出して個別に先生にアポを取り、お願いしてみてください。その勇気が絶対に力になると思います！！

3. 教採を終えて

教採は自分との闘いだっただと思います。人間は弱いし、すぐ誘惑に負けてしまいます。でも、そこでどれだけ自分に負けず、頑張ることができるのかが勝負だと思います。大学で開催される対策講座に参加して先生方の力を借りたり、友達の力を借りたりしながら、夢に向かって最後まで諦めず進み続けてください！「一発合格は無理だ…」と諦めてペンを置いたらいけません。結果はどうかあれ、その頑張りは自分自身を大きく成長させ、将来へとつながっていくと思います。自分を信じて、試験当日まで「もうこれ以上やることはない！」と思えるほど頑張ってください。応援しています！！





合格体験記（岐阜県・高校福祉）

社会福祉学部 社会福祉学科 2021年度卒業 横山実来

私は日本福祉大学を卒業後、岐阜県の高등학교に常勤講師として働いています。今年度、岐阜県の教員採用試験を受験し、合格しました。

私が在学中に試験勉強を始めたのは、大学4年生の4月頃でした。家では集中して取り組むことができなかつたため、教職課程の友人と小林先生のいらっしゃるお部屋に伺い、そこで勉強をするようにしていました。在学中の試験では、1次試験のみの合格で、今年度を迎えました。本年度の1次試験は特に勉強することができませんでしたが、2次試験前は国語の先生に小論文を添削していただきました。

【大学時代に行った試験対策】

①過去問

岐阜県の過去問題集を購入し、一人で問題を解き、答え合わせを小林先生と一緒に行いました。なぜその答えを選んだのか一問ずつ確認し、文章の何が間違っていたかメモしたり、問題の傾向を確認したりしました。専門科目は福祉とマニアックなものなので、過去問の販売はされていませんでした。ですが調べてみると、県庁に置いてあることを知り、友人と岐阜県に行き、問題をコピーさせていただきました。帰ってからその過去問を何部か印刷し、それを解くようにしていました。

②面接

大学が主催していた春講座に参加しました。そこで面接に関する基本的なマナーを学びました。私は話すのが苦手なため、事前に聞かれそうな質問に対する答えを考え、Wordにまとめてから参加しました。ただ参加後内容が不十分なことがわかり、小林先生に相談し、より私らしさが出る文になるように添削していただきました。

上にも書きましたが、取り掛かり始めるのが遅く、在学中には1次試験合格止まりでした。しかし、やってきたことを今年度活かし合格することができました。講師として働いていると、勉強する時間があまりないと思っていましたが、日々実教出版の教科書を使用し、授業を作っていたからこそ内容がよく頭に入っており、すらすらと筆記試験に答えることができたように感じました。面接も経験があるからこそ在学中の時よりも多く・深く話せていたと思います。

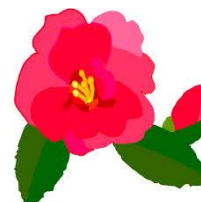
【今後教員採用試験を受験しようと考えている人へ】

教員採用試験に向けて準備をしていれば「なんとかなる」と思います。ただ、最低限の努力は必要です。バイトや仕事で忙しくても、ちょっとどこかに教員採用試験に関することを取り入れてみるといいと思います。そうすれば、最低限の知識はだんだんと身についてくると思います。私自身も今後学び続けなければいけないし、悩むことも多いかもしれません。

「なんとかなる」を合言葉にしながら、お互い頑張りましょう。
応援しています。



2022年度 教員採用試験を終えて



教職課程副センター長 齋藤一晴

今年度の教員採用試験の結果を受けて、その特徴や対策課題などについてまとめておきたい。まず特徴だが、①一次試験の延べ合格件数は80件を超えて2020年度の2倍以上と2017年以降では最多になったことである。また、二次試験の延べ合格件数も40件と近年では最多であった。②愛知県、名古屋市だけでなく近隣の岐阜県、三重県、静岡県をはじめ、北海道から富山県、福井県、新潟県、神奈川県、熊本県、福岡市に至るまで、例年以上に全国規模で採用者が出たこと。③スポーツ科学部から学部創設以来初めて中学校保健体育で採用されたことは特筆すべきであろう。④特別支援学校や特別支援教育に関わる採用が近年堅調なことである。

例年と比較して採用者が多かった最大の理由は、倍率の低さだと考えられる。学生のなかには、受験する自治体へのこだわりよりも試験の倍率、つまり受かりやすさを優先している場合も少なからず存在した。そうした「作戦」も教員になりたいという学生の気持ちを考えれば理解できないこともないが、時間をかけて受験自治体を検討し、みずから目指す教員像とマッチした自治体を受験して欲しいという思いも述べておきたい。

学生たちは大学生生活の約半分をいわゆるZoomで過ごした世代にあたる。学生間で自主勉強サークルなどをつくって教採対策をすることが難しかったと思われる。そうしたなかにあっても、わずかな情報交換や面接練習といった交流を最大限に活かして、採用を勝ち取ったことは大いに評価できると思う。学生たちは採用試験や採用後に仕事を続けて行けるだろうかといった様々な不安を抱えながらも、コツコツと努力を積み重ねたに違いない。

教職課程センターはキャリア開発課や学務部、教職課程事務室と連携しながら、コロナの影響で対面での教採対策講座が実施できないなかにあっても、遠隔での開催や例年以上の回数の面接対策講座を開催するなどして学生たちの試験対策を支援した。こうした点も、採用者の増加に結びついたのかもしれない。教員対策講座の終了後には毎回、学生に対してアンケートを行っており、そこに記された企画内容への改善案を可能な限り実現できるように努めてきたことも記しておきたい。

採用試験の結果から見えてきた課題は、以下の通りである。①不採用だった場合のほとんどが一次試験、つまり筆記試験が振るわなかったこと。②個人面接以外の小論文や場面指導、模擬授業などの対策が十分でない学生が少なくなく、その結果、採用に結びつかなかったこと。③面接は高得点ながらも筆記試験が合格ラインに著しく到達していない学生が少なくないことなどである。来年度以降の教採対策講座では、個人面接だけでなく、小論文や模擬授業、場面指導などへの対応ができる企画を充実させていきたい。また、筆記試験が合格ラインに著しく到達していない学生の多くは、大学の成績も芳しくないことが少なくない。試験対策という観点からだけでなく、日々の授業で学んだことの延長線上に教壇に立つという夢の実現があることを学生たちに伝えていきたい。

今年度お世話になった方々にお礼を述べるとともに、一人でも多くの学生が夢をかなえられるように今後も関係部署と連携しながら日々の授業やセンター業務に取り組んでいきたい。



卒業生からのたより

経済学部 経済学科 2021年度卒業
静岡県立高等学校教諭 小川詩恩

皆さんこんにちは、私は今年3月に日本福祉大学経済学部を卒業した小川詩恩と申します。私は昨年、静岡県の教員採用試験に高校公民で合格しました。現在は、県内のとある高校に赴任して8か月ほどになります。地元静岡で念願の教員になれたという喜びを噛みしめながら日々働いています。しかしながら、教員生活が始まった4月からは驚きの連続でした。

定時制で単位制高校という世界

私が務めている学校は、定時制高校です。私の出身高校には夜間定時制があったものの、定時制の生徒との関わりは全くありませんでした。全日制の経験しかない私は赴任当初、どのような教員生活が始まるのか不安でいっぱいでした。

本校は、3部制の高校で生徒によって朝・昼・夜、3つの始業がある形式になっています。生徒によって登校時間が異なるため、教員もそれに合わせた変則勤務となります。また、本校は前期入学、後期入学があり、生徒が自ら履修登録をして授業を選択し、単位をとることから、大学と同じようなシステムになっています。4月はシステムに戸惑いながらも、履修漏れがないよう慎重に対応しています。

授業と苦悩と

授業においても90分授業であることから、今までの1.5倍の時間構成で授業を組み立てる必要があります。また、個別の支援を必要とする生徒や全日制で学校生活に溶け込めず、転入・編入で入学して来る生徒も数多くいます。授業力に加え、生徒の気持ちに寄り添いながらの生徒指導力が求められる学校です。実際、授業登録をしても様々な事情から学校に来ることが難しく、生徒がそもそも来ないということもあります。授業においては、そのような生徒たちが学ぶことができるような授業づくりが求められます。生徒たちの学ぶ意欲を高めつつ、学校に来たいと思えるような授業を日々、考えながら作り上げています。今私が取り組んでいることは、毎回の授業で感想・質問カードを作成し、授業の最初で質問コーナーとしてフィードバックを行うというものです。授業に対する興味や次の授業に出るモチベーションを高められるようにしています。

教員を目指すうえで身に着けておく力

今、私は少しずつ職場に慣れ、他の先生と協力しながら仕事をしています。そうやって順応できているのも大学時代に様々な経験をしてきたからだと感じています。私は幸運なことに東海商業高校で長期にわたって授業をさせていただいたり、東海市の教育支援事業に携わらせていただいたりと機会に恵まれました。それでも、まだまだ教員になって知らない世界があるなと感じています。大学生の皆さんには様々な経験を積むことで「順応力」を身に着けていってほしいなと思います。他の卒業生からのたよりでは、教員として必要な力が書かれていると思いますが、私はもう少し広く環境に慣れる力が大切であると考えます。これから、思ってもないことが皆さんの身に降りかかるかもしれません。(私自身もまさか定時制高校に配属になるとは思っていませんでした)。今はジャンルを問わず、様々なことに興味関心を持ち、実際にチャレンジすることで沢山の経験を積んでいってください。



教師を目指す皆さんへ

スポーツ科学部 スポーツ科学科 2021年度卒業
静岡県 特別支援学校教諭 坂倉麗士

私は現在、特別支援学校に勤めています。教員を目指す皆さんへ、まずは初任者として勤務してすぐのことを話します。

1、可愛い児童・生徒たち

皆さんは、教員になってまず感じるのはどんな感情だと思いますか？不安、高揚感、多忙感…たくさん考えられる感情の中で最初に感じたのは「安心」でした。私がそうだったように、皆さんは障害の多様さや困難さゆえに、仲良くなれるだろうかと不安に感じていると思います。そんな私の不安をよそに元気な笑顔と声、私への少しの興味、そして話しかけてくれる生徒。子どもたちの実態は多様、つまり子どもたちの可愛さも多様と言うことです。

2、生徒の成長の喜び

新規採用の教員には初任者研修があり、他の初任者の先生と交流する機会があります。そこで「教員になって嬉しいと思ったこと」について紹介し合うことがありましたが、ほとんどの先生方が「生徒の成長がみられた時」と答えました。それだけ、先生方は生徒の成長のために一生懸命考え、準備してきたと言うことですが、何よりその成長を共有した時の子どもの笑顔にとても心を癒され、大きな達成感を感じることができます。それが教育活動におけるやりがいとなり、私の勤務する学校の先生方は日々教材研究や授業研究を重ねています。

3、新任に求められること

実際に勤務し始め、自分たちは何をしたら良いのかは皆さんの気になるところであると思いますが、1年目は生徒の実態把握が精一杯だと思います。子どもたちの関心・意欲・態度は、授業によって異なるため、全ての授業が初めての私たちはその授業における生徒の実態把握は難しく、もちろん授業もうまくいかないことばかりです。そのため、失敗してしまうのは悪いことではありません。ですが、私たちの仕事は子どもの豊かな学びを保障することなので、授業一つ一つを全力で作ることが大切であり、失敗して良いということではありませんよね。だからこそ、他の先生方を頼ってください。新人なので荒削りな授業になってしまうことが多いですが、それを先生方に共有し、角を少しづつ削り、生徒の学びの「引っ掛かり」を無くしていくことによって、学ばせたい内容に集中して取り組むことができる授業になります。そして、荒削りな分、授業を終えた後の反省も大きなことであるため、次の授業での変化はととてもわかりやすく、先生方はこの変化をよく見えています。皆さんにできること、それは自分の知識を活かして授業の大枠を作り、先生方と一緒に形にしていくためのチームづくりです。そして、削った角もそのままにせず、反省として持ち帰り、次の授業に活かしてください。このtry & errorが専門性を磨いてくれます。皆さんはこれからたくさんを学びます。その一つ一つを消化し活かすことは大変かもしれませんが、生徒の成長が多忙感を達成感に変えてくれます。この感覚はなっただけのお楽しみですね。

4、最後に

どうでしょう、少しばかり興味は持てましたか？皆さんにはぜひ、不安よりも興味を持って欲しいと思い、この便りを記しました。皆さんのこれからの益々のご活躍を祈っています。





学生の皆さんへ

子ども発達学部 心理臨床学科 2021年度卒業
神奈川県 特別支援学校教諭 鈴木陽

はじめに

はじめまして。私は現在、特別支援学校の教諭として働いています。教員歴はまだ1年半、高校時代は部活動に勤しみ、大学時代はアルバイトに明け暮れていた、ごく普通の社会人です。こんな私なので皆さんの役に立つようなアドバイスはできません。しかし、教員を目指している皆さんには、私のような後悔をしないよう、充実した1年目になるよう、これからの日々を過ごして欲しいと思います。そのために、私の経験をご紹介しますと思います。

たくさん遠慮した1年目

私がしている後悔、それは見出しの通り「遠慮」です。皆さんも一度は、教育実習やインターンなどで、「先生が忙しそうだから質問できなかった」という経験があるのではないのでしょうか？私の1年目は、今思えば遠慮のオンパレードでした。「今話しかけたら迷惑ではないか」、そんなことばかり考え子どもたちについての日々の疑問も内側に秘め、さらには指導案の添削もほとんど頼むことができませんでした。それが円滑な人間関係をつくる、良いおこないだと思っていたのかもしれませんが。

3学期に入る頃には、クラスの先生方との、子どもたちの言動の捉え方や支援方法に、すれ違いが生じることがありました。研究授業後には指導案についてのご指摘をたくさん受け、悔しい気持ちになりました。ここでやっと、1年目という絶好の機会を逃していたことに気が付きました。

もう一度やり直し！な2年目

周りの人に聞けること、たくさん教えてもらえることは、1年目の特権です。疑問に思ったことは聞き、感じたことや考えたことは話し、意見をもらう・・・それを嫌がる人は、まずいません。時間がない先生は、そう言ってくれますし、後で必ず時間を取ってくれます。2年目からはもう、クラスや学年・分掌のリーダーとなり、質問を受ける立場となります。

私は現在、クラス主担任として責任を持ちつつ、「1年目のやり直し」の期間だと喝を入れ、日々奮闘しています。まだ2年目なので当然ですが、子どもたちの指導については、学ぶことばかりです。1年目の後悔を忘れず、「Aさんの支援、こうやってみていいですか？」「私、Bさんがこう感じていると思うのですが、先生はどう思いますか？」「Cさんのパニック時の対応、難しいです。相談してもいいですか？」と、先生にゆとりのありそうな隙をねらっては聞いています。そのおかげで、子どもたちの見ている世界や感じていることが、少しずつ分かってきたように思います。

おわりに

教員の醍醐味は、これから長い人生を歩んでいく子ども達の、始めの数歩の伴走者となれることだと思います。子どもたちの頑張りや苦しみ、喜びを肌で感じることや、目の前にいる子どもたちが、大人になっても笑顔で、幸せに暮らす将来を想像しながら、日々指導を行うこと・・・それは教員にしかできない特権だと思います。私はこの仕事に携われることに、幸せを感じています。だからこそ教員を目指す皆さんにも、大切な1年目を充実したものにし、これからの教員人生のための良いスタートを切ってほしいです。もし、いつかどこかで出会えたら、お互い胸を張って、良い1年でした！と言い合えるように、頑張りましょう！



今伝えたいこと

子ども発達学部 子ども発達学科 2020年度卒業
長野県 小学校教諭 塩澤笑花

1. 大学での出会い

「たくさんの人と関わって、自分1人では辿り着けなかった世界をみよう！」

これは、私が小学校の子どもたちによく伝えている言葉です。

この言葉は、私の大学4年間そのものです。

私は、大学生になるまで学ぶことは、一人で黙々と教科書と向き合うものだとばかり思っていました。しかし大学生になり、学びはそれだけではないと気付きました。

『友だちと一つの事について何時間も話し合った日々』

『大学時代出会った人の言葉』

『大学の先生や友だちの姿』

『本や先人の残した歴史』

これらとの出会いは、自分一人では辿り着けなかった世界に連れて行ってくれました。人と関わることで、自分が変わり成長していくことを実感する楽しさ。これこそが何にも変え難い学びなのではないかと思うようになりました。

私は、この楽しさを子どもたちにも伝えたいと思うようになりました。

「あなたがいたから私は新しい自分に出会えた」と思えるそんな場を用意してあげたい！

「人との出会いは素晴らしいものだ」ということを伝えたい！と思っています。

人との出会いがたくさんある大学は卒業しましたが、今は子どもたちが、私を1人では辿り着けない世界に連れて行ってくれています。

人との関わりがこんなにも素敵なものだを教えてくれた、大学で出会った人に感謝します。

そしてこのセンター便りを読んでもくださった学生さん、今を思う存分楽しんでください！そしてたくさん人と出会って、たくさん経験をしてくださいね。その出会いや経験が、これからの自分につながっていくと思います。学生の皆さんがたくさんの人と関わって新しい自分と出会えることを願います。

2. ご紹介という名の感謝

最後に私が大学生のころ出会った言葉、姿を2つご紹介して終わります。

【1つ目】『見えないものにも感謝できる人になろう』

自分も大切にしているゼミの先生の言葉で、子どもたちにも伝えることがあります。この先生は数多くの言葉をくれただけでなく、新しい自分と出合うことができる場を用意してくれました。私もそんな場を提供できる先生になりたいと思うのです。

【2つ目】『講義中「伝わってる？」と学生に何度も問う先生の姿』

この先生は講義で「熱意が良い授業をつくっていく」と言っていました。その言葉を体現している先生でした。私も教室で「今言ったこと伝わった？」よく言っているのはきっと。



中学校教育実習体験談

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 國富翼

3週間の中学校教育実習では、教育者として多くのことを収穫することができた期間であったと思います。日頃の生徒との関わりや現場の先生の授業の様子や学級経営の様子、学校での取り組みなど様々な角度から教育を可視化することができました。私は、主に以下の2つのことを学ぶことができ、教師として大きな経験をさせていただいたと思っています。

(1) 生徒・クラスの理解の徹底

私は中学一年生を担当しましたが、まず、生徒・クラスの理解の徹底に困難を感じた部分がありました。教育実習ではまずは生徒・クラス理解を徹底することで授業の構想や生徒指導に大きく繋がってくることを教育実習が始まる前の打ち合わせで指導教官の先生にご指導いただきました。ご指導いただいたことを基に「生徒の理解・徹底」に重きを置き、実習初日からまずは生徒と積極的に関わろうとしていたが、中学生は、思春期真っ只中であり、身体的・精神的にも大きな成長のある時期であるため、生徒との関わりの難しさを実習当初は痛感しました。しかし、まずは教師が生徒一人一人のことを知っていくことが深い信頼関係を築く基盤にあることを学ぶことができました。まずは生徒のことを知ろうとすることで生徒がどんな人間なのかが把握でき、同時に自分自身を知ってもらうきっかけにも繋がります。授業の準備や指導案作成は大変ですが、まずは休み時間や給食、掃除の時間は積極的に生徒との関わりを大切にすることで実習3週間という短い時間で充実した期間を過ごすことができたと考えます。

(2) ICTを活用した主体的・対話的で深い学び

現在の教育現場ではGIGAスクール構想などで一人一台端末となっているタブレット端末がマストアイテムとなっている。当然教育実習での現場でもICTを活用した授業が求められる時もあるため、ICTの活用方法は3週間という短い期間で追究しながら学ばなければいけません。私は、ロイロノートというアプリを活用してICTを活用しましたが、当初はICTをどのように活用して授業を行うのかがまったくわかりませんでした。しかし、ロイロノートの活用方法のマニュアルを読んだり、指導教官の先生を始め多くの先生の授業を拝見させていただくことやご指導いただくことで3週間という短い期間でも活用できるようになりました。

実際に私がICTを活用した授業では、ICTを通して生徒一人一人が考えた意見をタブレット端末や電子黒板に映し出すことで、瞬時に意見を学級全体に共有することができるため、共有した意見からさらにグループ活動で生徒に考えさせたり、生徒に見せたい資料を電子黒板に映し、視覚的に見えるようにして資料から考えさせたりしました。ICTを活用することは多様な学びの手段となり、「教育の質の向上」に繋がってきます。

以上のように教育実習での経験があったからこそ教師になりたいという想いが一層強くなり、自分なりの教育像も見えてきます。教育実習での経験は自分自身の宝物であり、この経験を実際に教員として働いた時に活かしていきたいと思っています。



教育実習報告

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 高橋亮威

私はこの教育実習を終えて様々なことを吸収できた良い学びの3週間だったと感じている。実習を始める前は多くの不安要素があり、その中で迎えた実習だったので不安は絶えなかった。一般的に実習に臨む前は予習をしっかりすることや学びを深めておくことがよく言われるが個人的にはそれが必ずしも正しいと思わないと感じた。予習では当然限界があり、いくら事前に知識を蓄え、学びを深めても現場では全く違うことが起きたり、自分自身がキャパオーバーになったりと未熟な実習生は必ず直面する問題がある。なので、あらゆるパターンをあらかじめ予想して、その場で冷静に対処するためのシュミレーションや臨機応変な対応力を普段の生活から意識してみても良いと考えた。

実習が始まると、毎日がとても大変で、やる事がおおく怒涛の毎日を過ごした。中でも一番私が大変であり大切だとも思うことは生徒との距離感である。実習を通して自分が先生だと思わず、生徒と友達感覚で仲良くすることだけを追求して実習すればどれだけ楽だっただろうと感じる。大学生とはいえ、現場に入れば一人の教員である。生徒によってはいきなり友達感覚で接したり、しっかりと先生としてみてくれる人もいたりとそれも多岐に渡る。だからこそ教員らしく威厳を示す一面を持ちながら、学生としての一面を出し、生徒と多く接することを分かち合える中立的なポジションを常に確保することが大切であると感じた。

一方で、教育実習のメイン業務ともいえる授業についてである。

まず、体育ではより多くの授業見学をさせてもらい、場数をより踏ませてもらうことがとても大切であると感じた。私は実習が始まった初週から多くの授業見学を行い、知識を得た。実践では最初は生徒をうまく並ばせる、話を聞かせる所に焦点をおいたり、次は授業の実技の部分に焦点を置いたり、実践を通して毎回の授業で自分の中でポイントとなることを決めて、整理して行った。多くの場数を踏むことで余裕が出てきた。特に安全面の確保や生徒に理解をさせるということに重点を置くことがより良い授業が行えるようになった。だからとにかく許容範囲内でより多くの実践をさせていただくことが大切であると感じた。

次に、保健である。保健では授業の強弱をつけること、ICTの活用、発問がより重要なポイントだと学んだ。特に私自身が感じた1番の学びは教員にとっての当たり前を生徒に提示しないことである。教員は授業の中身も、内容も深く熟知しているのは当然である。それを教える、伝えると言う視点を忘れてはいけないと痛感した。このくらいなら答えられるだろうと思わず自分自身が生徒の立場になった時にどんな質問なら答えやすいのか考えながら授業を作ることが大切であると学んだ。

これらを踏まえ、実習を通して本当に多くのことを学べた素晴らしい期間であったと感じる。最初は多くのことが慣れずに、緊張してしまっていたがアドバイスや経験を積むごとに徐々に自信がついた。自信を持って実習に取り組めれば、失敗やミスをしても必ず意味があるものになるし、その実習が価値あるものになると強く感じた。





今後の予定

【3年生（1・2年生の参加も可）】

教員採用試験合格体験報告会

2022年12月17日（土）1・2限 対面開催予定

【1年生】

教職課程オリエンテーション

2023年3月23日（木）4・5限 美浜キャンパス・東海キャンパス

教職課程登録期間

2023年 3月下旬を予定

